

TCRM News Letter

豊橋市民病院総合生殖医療センターニュースレター

Toyohashi Municipal Hospital
 Center for Reproductive Medicine

当院では、初期検査のデータを治療に役立てる不妊因子別治療を基本としつつ、ステップアップ法(図1)を積極的に活用しています。

不妊治療では、同じ治療法を四回以上繰り返した場合は、妊娠率はほとんど低下していくことが知られています。一例として、人工授精の累積妊娠率を

図2に示しました。累積妊娠率とは、わかりやすくいえば一〇〇人の患者さんが治療を開始して、何回目までに何人が妊娠に至るかを示したグラフです。

人工授精は、当院では外来の内診台で五分弱で終了する子宮の中に洗浄した精子を濃縮して入れる方法です。一回目で一人の患者さんが妊娠するもの

の、だんだん成功率が下がり、三回目が終わったあたりから、頭打ちになってしまいがちです。全体で四〇・三人が妊娠しますが、その六割は二回目までの

AIHで妊娠しています。不妊治療はだらだらと長くやるものではないと考えるのは、医師も患者さん

も同じですが、お互いどうしても同じ治療をだらだらと長く続けてしまいがちです。その弊害を最もわかりやすく示したのが、図3です。ステップアップ法を行わないと、ステップアップ

法で約80%の患者さんが妊娠に至った一八か月の二倍にあたる三六か月を経過しても約40%の患者さんしか妊娠に至っていないという事実は、

研究を行った当時の私にも衝撃的でした。図4には、妊娠反応陽性例の治療法別内訳を年齢別に示してあります。ステップアップ法により、どの年齢でも

必ずしも体外受精以上の治療に頼ることなく、成果が得られているのがわかります。いきなり治療が大きく進むことは無いので、ステップアップ法を用

いたと、たとえば一人目は体外受精だったのに二人目は自然妊娠ということとは非常に稀です。(安藤寿夫)

図1 当院で採用しているステップアップ法の原則

一般不妊治療

AとBを組み合わせる

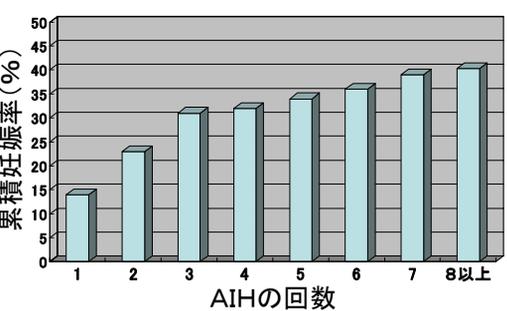
A. タイミング法 → 人工授精
原則6周期まで 原則3~6周期

B. 自然周期→クロミッド周期→クロミッド+HMG/FSH周期
体外受精に移行するまでに完了しておくことを原則とする



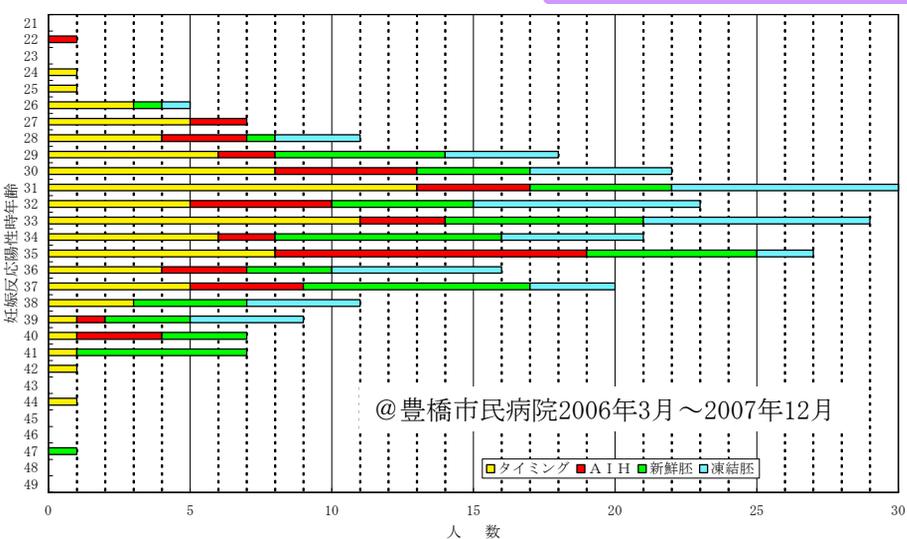
特定不妊治療(体外受精・顕微授精などの高度生殖医療)

簡易採卵法 → 通常採卵法 → 簡易採卵法
原則0~3周期 原則0~3周期



@豊橋市民病院2006年3月~2007年11月

図2 AIHの回数と累積妊娠率：4回目以降の妊娠は非常に少ない。しかも、そのほとんどが他院で5回以上AIHを行っていた患者さんである。



@豊橋市民病院2006年3月~2007年12月

図4 年齢別妊娠反応陽性人数と治療法：ステップアップ法では、どの年齢でも、タイミング、AIH、特定不妊治療(新鮮胚・凍結胚)の比率は大差ない。

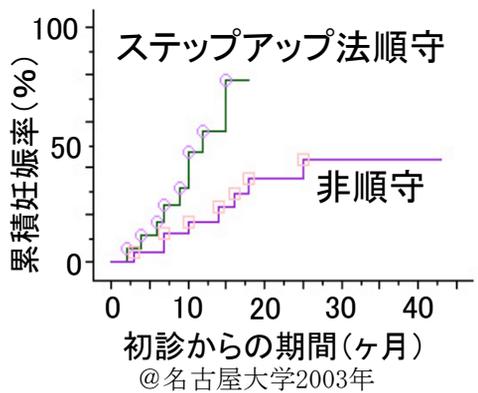


図3 ステップアップ法と妊娠までの期間：ステップアップ法では18か月(1年半)で約80%の患者さんが妊娠に至ったが、ステップアップ法を守らないと36か月(3年)経過しても約40%の患者さんしか妊娠しなかった。